

2024年度文化祭 (2024.6.1)

6月1日、「Espoir」(エスポワール=フランス語で「希望」)をテーマに、恒例の文化祭が行われました。連休明けから当日まで1ヶ月もなく、連休明け・中間試験後に動き始めたのでは間に合わないため、今年は連休前から各クラスで文化祭の話し合いを始め、時間をかけて企画を練りました。

高校午前の部は、体育館での学術講演会です。今年は京都大学大学院理学研究科教授・高橋淑子先生に「細胞の声を聴く～動物の形作りから生まれる機能と病気の理解～」と題してご講演を賜りました。その後は委員会が制作した「部活紹介ビデオ」が放映されて盛り上がりました。10時30分にそれらが終わって、「午後の部」が始まりました。

中学午前の部は、ヨセフホールでの、全クラスによる合唱コンクール、中二・中三有志による演劇、音楽鑑賞です。中学生全員と多数の親御さんやお客様で、広い会場は満員になりましたが、その中で皆熱心に鑑賞し、時に笑いや拍手で盛り上がりました。

中間考査後、朝礼や終礼等の時間を利用して、各クラス思い思いに合唱コンクールの練習を行いました。その時間に中学の中庭を歩くと、いろいろな曲が各階、各教室から聞こえてきてとても楽しい気分で過ごせたものです。文化祭当日はどのクラスも練習の成果を発揮し、素晴らしい歌声を披露しました。

各学年による演劇は生徒オリジナルの脚本によるもので、中2は英語劇ながら随所で弾けるギャグに喝采が湧き、中3の舞台は起伏に富んだストーリー展開が観客を楽しませました。参加した生徒達も、力を合わせて一つの作品を作り上げる喜び、大勢の前で演じる楽しさを存分に味わっていました。

音楽鑑賞はオーディションを勝ち抜いた生徒たちの演奏です。当日はピアノ独奏や連弾、バイオリン独奏、リコーダー四重奏、金管五重奏、バンドなどが、それぞれに見事な演奏を聴かせてくれました。またコロナの影響で中断していた職員合唱も久々に復活し、登壇した30名近い先生方が会場の手拍子に乗せて「愛は勝つ」を熱唱しました。中学午前の部は12時に終了し、12時40分から午後の部が始まりました。

午後の部はクラス企画です。中高とも、各クラスが趣向を凝らしてお客様を迎えました。高校では、3年文系による焼きそば・かき氷などの模擬店が、また3年理系による恒例「ねるとん」や「手製ジェットコースター」が、多くのお客様を集めました。高1・2ではオリジナルの映画を作ったり、目隠しをして相手の気配を感じながらおもちゃの刀でチャンバラをしたりというアイデア勝負の企画も面白く、プールではペットボトル製のボートを使った競争が人気を博しました。

中学ではカジノや縁日などお祭り系が目立つ一方、テニスコートを広く使った文字通りの巨大迷路や、水鉄砲を使ったサバイバルゲーム、オリジナルのピタゴラスイッチなど、お客様も自分たちも楽しめる企画が並びました。また各階自習室や廊下には、生徒諸君が美術の授業で制作した作品が多数展示されました。

文化部にとっても、文化祭は日頃の活動成果を披露する貴重な機会です。クイズ研究会は「パネルクイズアタック25」の教員戦を主催して多数の観客で盛り上がり、その後方では鉄道研究会が大きなジオラマを作ってNゲージの鉄道模型を走らせ、多くの子どもたちを釘づけにしました。写真部は写真展で部員の個性と感性のあふれた作品を並べ、生物部は樹脂を使ったオリジナルの標本を新作して、いずれも見応えがありました。囲碁部・将棋部は自由対局で部員がお客様と対戦し、ビューグラスは午後のヨセフホールで定期演奏会、茶道部はプールサイドにある茶室で茶会と、それぞれお客様をもてなしました。さらにはバザー実行委員会がパンやジュースの販売に取り組み、文化祭実行委員会をしっかりとアシストしてくれました。

今年初めて行った「生徒有志による学校・寮案内」がすこぶる好評だったことも特筆に値します。受付の始まる朝10時30分を前に長い行列ができ、受付開始後5分で全ての枠が定員に達しました。案内役の生徒は、多少照れながらも誠実に説明を行い、参加者の質問にも丁寧に答えていました。

今年の文化祭は天候に恵まれ、多数のお客様にご来場いただきました。また文化祭実行委員(各クラス2名+有志の生徒)の入念な準備と行き届いた運営もあって、大きな事故もなく、午後3時の終了、それから約1時間をかけての片付けまで、とてもスムーズに進みました。

ここ数年、新型コロナの影響で文化祭も中止や規模の縮小を余儀なくされましたが、今回はそのブランクをはねのけられたと思います。校内いたる所で生徒の笑顔が弾ける素晴らしい一日になりました。

